

対外的発信実績 報告

(1)かわまち大賞への応募	1-1
(2)全建賞の受賞	2-1
(3)広報媒体の掲載状況	3-1

(1) かわまち大賞への応募

『かわまち大賞』は、良好な水辺空間の形成を目的とした「かわまちづくり」における、先進的な取組を表彰するもので、平成 30 年度に創設されました。3 回目となる今年度は、「建築・都市史」、「観光」、「地域政策」の分野の有識者 3 名による審査委員会の審査を経て、令和 2 年 12 月 18 日に表彰箇所が発表されました。

☆今年度受賞箇所☆

水系名	河川名	関係自治体	かわまちづくり名称	推進主体
荒川	北十間川	東京都墨田区	北十間川かわまちづくり	墨田区 東武鉄道株式会社 北十間川水辺活用協議会
五ヶ瀬川	五ヶ瀬川 大瀬川	宮崎県延岡市	五ヶ瀬川かわまちづくり	五ヶ瀬川かわまちづくり検討会

※各箇所の取組及び評価は、次頁以降を参照ください。

「盛岡地区かわまちづくり」は昨年度に続き応募を行いました。惜しくも落選しました。今後もより良好な河川空間を目指すと共に、来年度以降のかわまち大賞受賞を目指します。

取組内容：住民参加の「かわ」の活用 ～観光客数も着実に増加～

市内中心部を流れる北上川、中津川は日頃より散策等に利用され、サケの稚魚放流会、伝統行事の「チャグチャグ馬コ」他、四季を問わずたくさんイベント等が開催され、多くの市民、観光客に利用されている。また、新たな取り組みとして、河川敷を利用して「街なかキャンプ」、「水のほとりの上映会」や川に親しむ舟運イベント等が開催されている。平成元年には、公募設置管理制度(Park-PF)を活用した木伏緑地が北上川沿いにリニューアルオープンした結果、地域の賑わい創出や観光振興に寄与し、盛岡市の年間入込客数の増加に一定の効果を発揮している。



チャグチャグ馬コ(中津川・中の橋下流)



サケ稚魚放流会(中津川・中の橋下流)



舟運イベント(北上川・旭橋上流)



木伏緑地の賑わい(北上川・開運橋上流)



街なかキャンプ(北上川・木伏緑地河川敷)



水のほとりの上映会(中津川・中の橋上流)

○推進主体：盛岡地区かわまちづくり

懇談会

構成員：学識経験者、NPO法人、
商工会議所、青年会議所、
盛岡市、岩手河川国道事
務所等

代表者：盛岡市長 谷藤裕明

○整備状況：部分完成部分供用

「かわまち大賞」としてのPRポイント

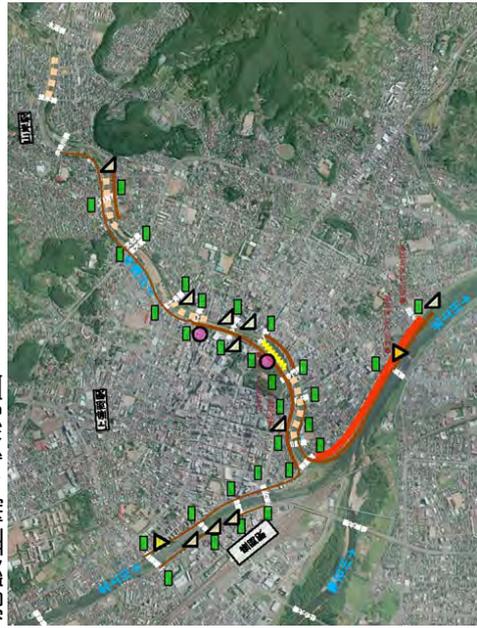
中心市街地の活性化が急務となっている中で、市内中心部を流れ、良好な観光資源である北上川、中津川の河川空間を観光アクセスとして活用することで、街なかの賑わいの創出や観光振興に繋げる多くの取組みを市民、地元団体、民間、国、市が連携し、実施している。

特に最近では、民間事業者や地元商店街等が主体となり、河川空間を活用した地域を活性化させるイベントの開催や民間資金を活用した整備・管理が実施されるなど、民間主体の活動が盛んとなっている。

位置図



施設整備の状況図



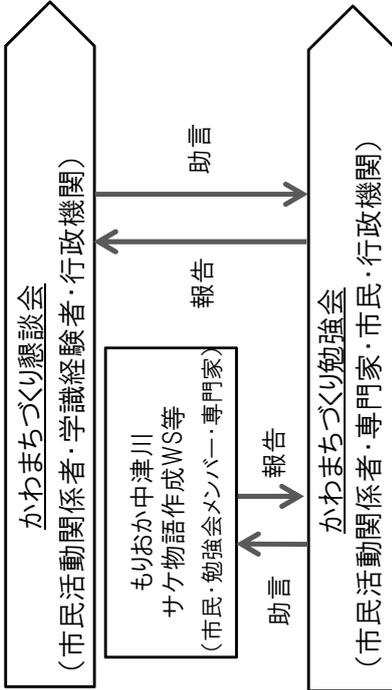
凡例

- 石積岸壁
- 植木護岸
- 植樹・緑陰
- 案内標識橋
- 自然護岸・植石
- 中州遊歩
- フォアパス
- 石積護岸



管理運営体制図

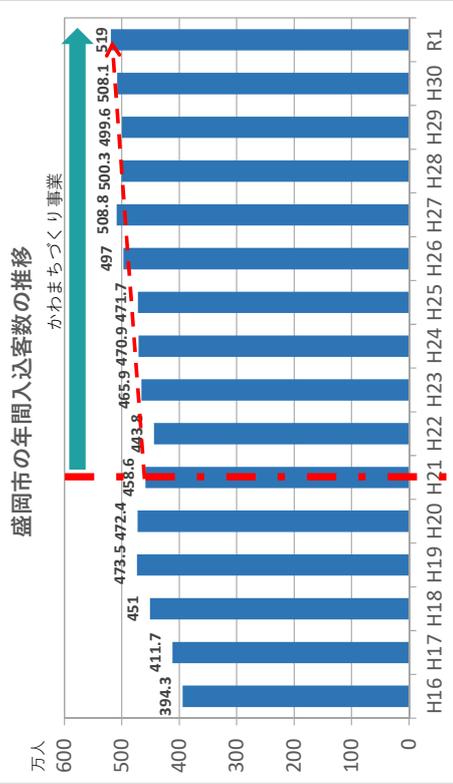
- ※ 施設の維持管理は、各施設管理者が行う。
- ※ 活動団体が主体となって運営する。行政側はその支援を行い協働により実施する。
- ※ 下図は盛岡地区での各種取り組みに向けた懇談会等の枠組みを示したものの。



取組による効果

盛岡市の年間入込客数の推移は、かわまちづくり事業を開始した以降、着実に増加している。

「盛岡市観光推進計画(5ヶ年計画)」において、平成31年度までの目標数500万人をH27・H28・H30と達成し、令和元年は更に519万人に伸びた。今後も更なる取組みを実施する。





きたじゅっけんがわ

北十間川かわまちづくり

【題名】官民連携により水辺とまちの一体的空間づくりを実現
 【河川】荒川水系北十間川（一級河川）



かわまちづくりの概要

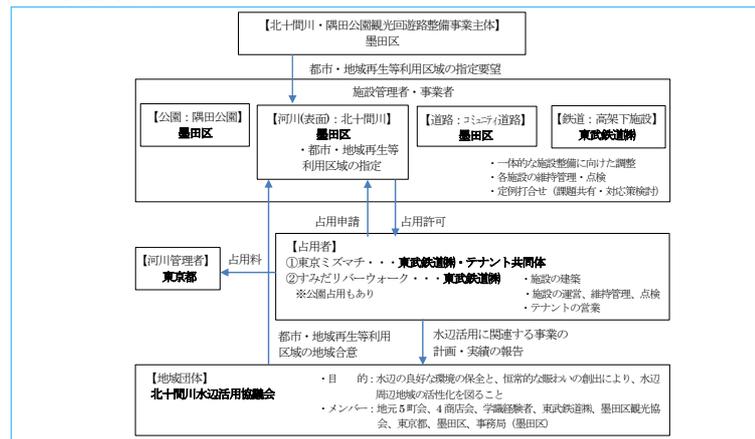
- ・官民連携により、水辺・鉄道高架下・道路・公園が隣接する立地を活かした一体的空間づくりを実現。
- ・都市・地域再生等利用区域の指定により、河川敷地内に遊歩道、商業施設等の利活用を考えたハード整備を行うことで観光拠点間の回遊性の向上を図り、新たな賑わいを創出。
- ・水辺の良好な環境保全及び恒常的な賑わい創出により地域の活性化を図ることを目的として、住民、関係機関等とともに継続的な議論を実施。

評価のポイント

- ・民間事業者の積極的な関与により、官民が連携して水辺の利活用を考えた工夫あるハード整備を都心部において実現したことはとても高く評価できる。
- ・観光拠点を結ぶ新たな動線や商業施設が生まれ、今後さらなる賑わいの創出が期待できる。
- ・行政と民間事業者が「Design Guideline」を設定し、地区全体のデザインの指針としてまとめて共有し、一体的空間を実現したことは、他の地区の参考となる。

体制

- ・推進主体：墨田区、東武鉄道（株）、北十間川水辺活用協議会



効果

管理運営体制図



「すみだリバーウォーク」の通行者数

問合せ先：墨田区都市整備部都市整備課

TEL：03-5608-6294

E-Mail：TOSHISEBIKA@city.sumida.lg.jp



ごかせがわ
五ヶ瀬川かわまちづくり

【題名】 【水郷のまち延岡】の3つの拠点の特性を活かしたかわまちづくり
【河川】 五ヶ瀬川水系五ヶ瀬川・大瀬川（一級河川）



かわまちづくりの概要

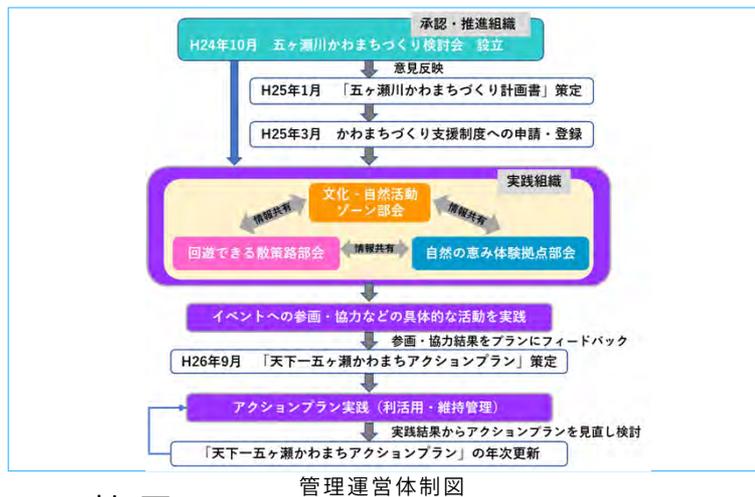
- ・300年以上の歴史を持つ地域資源「鮎やな」を中心とした拠点施設を整備し、食事処の設置や、水防歴史文化である「壘堤」の常設展示、記念碑の建立、壘堤に絵画を差し込み展示する青空美術館の開催など、歴史・文化を守り、賑わいを創出する取組が行われている。
- ・かわまちづくり計画の実践組織として、特徴ある3つの拠点ごとの部会が構成され、様々な活動主体がそれぞれの役割を持ち、連携しながら戦略的・総合的な取組を行っている。また、「アクションプラン」を策定し、実践結果をもとに見直し・更新を継続している。

評価のポイント

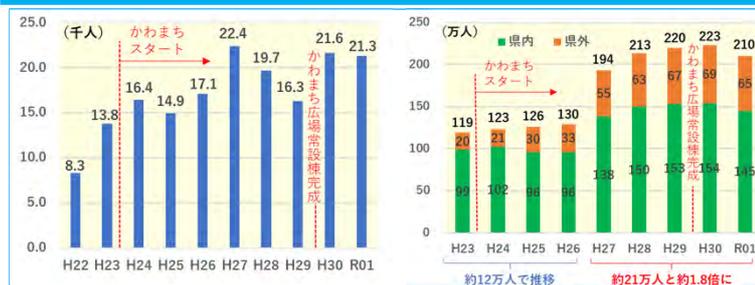
- ・鮎やなや壘堤など、地域資産や防災にまつわる歴史・文化を利活用しながら継承している取組はとて高く評価できる。
- ・高校生が河川でのイベントのボランティアとして運営に参加するなど、次世代への人材育成にもつながっている面から継続性において評価が高く、他の地区の参考となる。

体制

- ・推進主体：五ヶ瀬川かわまちづくり検討会



効果



左：鮎やな食事処来訪者数

右：延岡市への観光客数

問合せ先：延岡市都市建設部土木課

TEL：0982-22-7021

E-Mail：doboku@city.nobeoka.miyazaki.jp

(2) 全建賞の受賞

【全建賞とは】

良質な社会資本整備の推進と建設技術の発展を促進するために設けられたものです。昭和28年（1953年）の全建賞創設以来、日本の社会経済活動を支える根幹的なインフラ整備や、その時々国民ニーズに沿った幾多の取り組みに受賞がなされてきました。

令和元年度表彰で67回目となりました。

【対象事業(又は施策)と審査】

国、都道府県、市町村、機構・公社等の機関において実施され、地方協会長により推薦された事業(受託を含む)又は施策について、部門(道路・河川・都市・住宅・建築・港湾・鉄道)ごとに分かれて、国土交通省の各専門の担当者による予備審査を経て、さらにその後、大学や民間の学識者を中心とした委員による審査委員会（委員長：石田東生 日本大学特任教授・筑波大学名誉教授・特命教授）を行い、のべ2ヶ月間におよぶ慎重な審査を経た選考が行われます。

令和元年度全建賞【都市部門】を、「Park-PFIを活用した公園整備（木伏緑地）」が受賞しました。

全建賞

都市部門

③ Park-PFIを活用した公園整備（木伏緑地）

授賞機関 盛岡市

キーワード Park-PFI、かわまちづくり事業、街のハブ

全建賞審査委員会の評価ポイント

公募設置管理制度（Park-PFI）を活用して民間活力を取り入れ、低コストで公園のリノベーションを行った事業。利用者数や滞在時間の増加、新規事業者の参入の場の創出、維持管理コストの低減など、「街のハブ」として大きな成果を上げている点が評価された。

1. はじめに

盛岡市は、岩手県の県庁所在地であり、北東北の交通結節点の機能を有する人口約29万人の中核市である。本市では、市内475ヵ所の都市公園を、市民の憩いの場所としての機能を保ちながら、利用者の利便性向上や利用率増加につなげる、新たな活用方法を検討してきたが、都市公園法や盛岡市都市公園条例の制限等があり、収益施設等の設置には高いハードルがあった。

2. 事業の概要

盛岡駅東口の北上川沿いに位置している木伏緑地は、普段は市民の憩いの場として、また年数回の地元商店街主催のイベント等に活用されてきたが、日常の利用者が少なく、好立地の割に賑わいが不足していること、駅東口周辺や当該緑地に公衆トイレが無いことが課題であった。



木伏緑地店舗群の様子

平成29年の都市公園法改正で新たに創設された公募設置管理制度（Park-PFI）により、都市公園活用の幅は広がり、民間のアイデアを実現できる可能性が広がった。本市でも同制度を活用し、平成30年6月に、公園利用者等の利便性向上に繋がるカフェ等飲食店の民間収益施設と公衆トイレを整備することを目的として公募を行った。同年8月には事業者選定を行い、令和元年9月

にオープンした。本市におけるPark-PFIにより整備した公園の第1号である。

3. 事業の成果

本事業は、本市の抱える課題の解決に資することを目的としており、今回の整備によって、民間収益施設からの利益還元により適切に維持管理されることで、市の財政負担軽減が図られると共に、市民ニーズを満たすサービスの提供が可能となった。

また、整備後の利用者は前年比2.5倍となったほか、店舗での飲食だけでなく、デッキや芝生広場での滞在時間が長くなり、利用者アンケートでは、8割が満足と回答している。さらに、木伏緑地に隣接する北上川では、国土交通省と本市で盛岡地区かわまちづくり事業に取り組んでいることから、地元団体や民間事業者と連携し、木伏緑地との一体的な河川空間の利活用を図ることで、盛岡の新たな魅力づくりにつなげている。



木造船「もりおか丸」

北上川ゴムボート下り



キャンプ

アウトドアレストラン

河川と緑地の利活用例

4. おわりに

木伏緑地の周辺は、それぞれ魅力のあるエリアだが、川等で分断され、エリア同士のつながりが弱かった。本事業により木伏緑地が「街のハブ」となることで、分断されていたエリアに新たな人の流れが起き、さらなる周辺への相乗効果が生まれることを期待している。

(3) 広告媒体への掲載状況

建設関連雑誌にて、木伏緑地の取組が紹介されました。

「建設」R2.5号

特集 地域活性化の推進～まち・ひと・しごとの創生～

Park-PFIを活用した公園整備（木伏緑地）

公民連携による公園からはじまるまちづくり



もり かつ とし
森 勝利*

新たな公園整備の事業手法である公券設置管理制度（Park-PFI）の創設により、民間収益施設を設置しやすくなった。しかし、単に民間収益施設を設置するだけでは公共事業とは言えない。本稿では、本市がPark-PFIにより都市公園の活用を進めることで、都市経営課題の解決を目指している取組事例について紹介する。

1. はじめに

盛岡市は、岩手県の県庁所在地であり、北東北の交通結節点である人口約29万人の中核市である。

に公園活性化プランを活用し、民間事業者から事業提案があるも、当時の条例では建蔽率等の問題をクリアできず、事業化に至らなかった。

「河川」R3.1号

～水辺とつながる暮らしを楽しむ～

かわまちづくりリレーレポート

北上川水系・盛岡地区かわまちづくりの取り組み ～木伏緑地の賑わいと北上川の水辺空間の利活用～



Kitakami River System・Morioka District River
and Community Planning

と が し ま さ ゆ き
富 樫 正 幸 *
TOGASHI Masayuki

1. はじめに

盛岡市は、岩手県の県庁所在地であり、北東北の交通結節点である人口約29万人の中核市である。